

令和2年度 人権同和教育を実施しました!!

令和3年1月21日（木）、全生徒を対象に人権教育としてDVDを視聴しました。映画「声を聞かせて」は40分の短編アニメですが、「メール」「学校裏サイト」「掲示板」「同和問題」「友情」「本当のコミュニケーション」「家族の絆」「命」携帯を持つ子供のおかれた環境と現状がアニメーションで見やすく生徒も受け止めやすいもので、北九州市と東映株式会社の作品です。主役が高校1年生設定でわかりやすいためか皆、真剣に画面を見入っていました。教室に移動して感想を記入しましたが、移動中も内容に関しての話題や疑問点などを話している声が聞こえました。下記は生徒の感想より抜粋しました。



Q、裏サイトについてどう思いましたか？

A、「怖いけど気になる気持ちが勝ってみたいかもしれない。」
「面白半分で人を馬鹿にして煽ったり『死ぬ』などの暴力表現があって嫌だなあと感じました」「裏サイトを作る人も最低だが、書く人も同罪」「意味がない」「かわいそうな人の集まり」

Q、友人が当事者ならどう接したいですか？

A、[変わらずに接する]「直接はなしを聞いて、そばにいる」「いじめ側にはなりたくない」「いじめる側なら注意したい」「噂にふりまわされたくない」



Q、映画の感想

A、「携帯を持ってよかった」という反面「面倒」ということもあるこのような問題が0(ゼロ)になることはないだろうが被害者になっても負けず、誰かが被害者なら悲しい身長を選ばないようにさせたい」「メールでは本当の気持ちを伝えられないと感じた。発する言葉はしっかり考えて発言・行動使用

用と思います」「SNSは怖い」「携帯がなくても友達はある」「携帯の裏にある危険を再確認した」「良心的な発言に対するいじめ発言。顔が見えないから出る無責任発言の怖さを実感」「ネットに限らず日常の悪口も、一度考えて発言できるようになりたい」「たかが悪口、遊びだったとしても相手が自殺したら通用しない」「一人ひとりの人権が守られる社会になってほしい」